

# 海洋理工学会 平成 10 年度 春季大会

期日 平成 10 年 5 月 14 日 (木) 15 日 (金)

会場 東京水産大学 (東京都港区港南 4-5-7 JR 品川駅徒歩 7 分)

協賛 日本海洋学会 / 日本水産学会 / 日本気象学会 / 日本造船学会 / 日本機械学会  
/ 海洋調査技術学会 / 応用物理学会 / 電気学会 / 電子情報通信学会 / 映像情報メディア学会 / 計測自動制御学会

5 月 14 日 (木) シンポジウム・公開講座

## シンポジウム「新しい環境計測」

コンビーナ 中西俊之 (沖電気) 竹内俱佳 (電通大)

9:30-10:00 「XCTD」 関本道夫 (鶴見精機)

10:00-10:30 「海洋科学技術センターの高緯度海域における物質循環研究計画」  
日下部正志 (JASTEC)

10:45-11:15 「光ファイバ式温度分布計測システム」  
久保田俊輔 (ワイ・オー・システム)

11:15-11:45 「海洋環境計測技術の動向-OI98 から」 竹内 俱佳 (電通大)

## 公開講座「CO<sub>2</sub>の増加は海の環境に何をもちたらすか？」

コンビーナ 大隅多加志 (電中研) 原田 晃 (資環研)

13:00-13:45 「大気 CO<sub>2</sub> 濃度の安定化対策と海洋環境」 大隅多加志 (電中研)

13:45-14:30 「海洋炭素循環の理解は充分か？」 原田 晃 (資環研)

14:45-15:15 「海洋を利用した CO<sub>2</sub> 対策のモデルによる評価」 徂徠正夫 (三菱総研)

15:15-16:15 「CO<sub>2</sub> 海洋隔離技術の現状と課題」 尾崎雅彦 (三菱重工)

16:15-17:00 総合討論

5 月 15 日 (金) 一般講演・総会

## [A] 水中音響 (9:30-10:50)

1. 海洋音響トモグラフィーシステムによる黒潮続流域立体観測—実験—

○藤森英俊・中埜岩男・中村敏明・袁 剛・茨田和生・木邑純一・前島芳充 (JAMSTEC)  
鴨志田隆・賀谷彰夫・海法宇治・中西俊之 (沖電気工業)

2. 200Hz 海洋音響トモグラフィーシステムによる黒潮続流域立体観測—解析手法—

○鴨志田隆・賀谷彰夫 (沖電気工業) 中埜岩男・中村敏明・藤森英俊・袁 剛 (JAMSTEC)

3. 200Hz 海洋音響トモグラフィーシステムによる黒潮続流域立体観測—解析結果及び比較—  
○袁 剛・中埜岩男・中村敏明・藤森英俊・茨田和生・木邑純一 (JAMSTEC)

鴨志田隆・賀谷彰夫 (沖電気工業)

4. データ同化手法を用いた音響トモグラフィデータの解析手法の研究 (I)

○新家富雄 (沖電気工業) 吉川泰司 (JAMSTEC) 三寺史夫 (JAMSTEC/IPRC)

[B] 生態系モデル・観測 (11:00-11:40)

5. 生態系モデルを用いた能取湖のアマモ場における物質循環の解析

○畑 恭子 (新日気) 中田 喜三郎 (東海大海洋)

6. HPLCによる干潟堆積物中の植物色素分析

○中山 和子 (日本海洋生物研究所) 鈴木 輝明 (愛知水試)

11:50-12:20 海洋理工学会論文賞表彰

海洋理工学会平成10年度総会

[C] 物質循環 (13:00-13:40)

7. 北西部北太平洋における pH、全炭酸、アルカリ度測定

○本多 牧生・村田 昌彦・熊本雄一郎・日下部正志 (JAMSTEC)

8. 北西部北太平洋の表面海水中の  $pCO_2$

○村田 昌彦・本多 牧生・熊本雄一郎・日下部正志 (JAMSTEC)

[D] 海上風・波浪 (13:40-14:30)

9. ADEOS/NSCAT によって観測された海上風ベクトルと海洋気象ブイデータとの比較

○江淵直人 (東北大理) Hans C. Graber (マイアミ大) Abderrahim Bentamy (IFREMER)  
向井田明 (RESTEC)

10. 海面高度データ同化における風の必要性

○久保田雅久・大山憲太郎 (東海大海洋)

11. 流出油リモートセンシングのアプローチに関する一考察：波面確率密度と屈折率の変化の検出

○菅野 進 (芙蓉海洋開発)

[E] センサー・システム開発 (14:50-16:30)

12. 多点型CTセンサーケーブル測定システムの試作と汽水域での塩分・温度観測実験

○西村清和 (地質調査所) 鈴木重教 (鶴見精機) 徳岡隆夫 (島根大総合理工)

13. 高精度な現場型 pH センサーの開発

○下島公紀 (電力中央研究所) 許 正憲 (JAMSTEC)

14. 光合成-光曲線を作成するための基礎生産測定装置 (13C法)

○栗田貴代 (日本海洋生物研究所), W. G. Harrison (Bedford Inst. Oceanog., Canada)

15. ブイ搭載型小型海中レーザレーダによる植物プランクトン計測 II

○斎藤俊幸、飯高 弘、佐藤宗純 (電総研) 日下祐三 (三井造船昭島研)

16. プランクトン存在量計測のための高倍率水中撮像装置の開発

○秋葉龍郎, 中村真里, 角井嘉美 (電総研大阪)